

改革完遂！
当たり前の労働運動
を前進させよう！
J R 東海労に
結集しよう！

J R
東海労

静岡

J R 東海労働組合静岡地方本部
静岡市葵区黒金町 68

NTT 054-284-3608

発行責任者 山本繁明

2011年4月21日 No. 16

福島で原発労働者や建設労働者に迫る危険

日給30000円で福島原発へ行ってくれないか？！

3月11日に発生した東日本大震災で、福島第一原子力発電所で重大な事故が起こり、現在も危機的状況が続いています。事故評価尺度レベル7という中で、この間、収束にむけて多くの労働者が放射能に被曝しながら危険な作業を続け、実際に被曝事故に遭いながら破局を食い止めてくれています。ところで、一般公衆の年間放射線量の限度は1ミリシーベルトです。そして、作業員が緊急作業従事の場合に認められている上限は年100ミリシーベルトでしたが、厚生労働省は今回の事故に対応するために、年250ミリシーベルトまで引き上げました。つまり、これまでも膨大な被曝量だったのに、倍以上の被曝を我慢しろというのです。ロボットが測定した事故現場の放射線量は、3号機建屋内で1時間57ミリシーベルト（前日の事前測定では1号機建屋外で1時間270ミリシーベルトを検出）です。もし、57ミリシーベルトの環境で復旧作業に従事すれば4時間半で年間被曝量に達し、その労働者は使い捨てにされます。6ヶ月から9ヶ月で収束させるという行程表が提示されていますが、その間、作業員は次々と被曝していきます。いったいどれだけの労働者が被曝させられるのでしょうか！？ 東京電力は福島第1第2原発の作業従事の求人広告を日給約1万円を出しています。今、建設業の労働者を中心に専門外であるにもかかわらず「日給3万円で福島原発に行ってくれないか」と派遣を求められているそうです。当然、爆発や大量被曝の危険の中での作業を覚悟しなければなりません。

**労働者に犠牲を強いる原発政策反対！ 原発全廃！
政府は即刻にエネルギー政策の転換を！！**